

知事記者会見（平成23年6月13日）

●知事発表

（１）全県一斉節電行動の試行（6／15）に向けた県民への協力のお願い

●幹事社質問

（１）6月議会に向けて

（２）全国知事会議について

時間：15：30～16：09

場所：プレゼン室

(幹事社)

はじめに知事から発表事項があるということですので、お願いいたします。

(知 事)

まずその前に、先般の3日の会見でもお話申し上げましたが、こういう形で通常の会見ができるようになりました。体重が10キロぐらい減り、かなり健康的な食事をしておりまして、ちょっと燃料不足で、腹に力が入らない状態ですが、徐々に慣れてくると思いますので、よろしくお願いします。

私からは、全県一斉の節電行動の試行について、県庁も率先して行いますが、県民の皆様、企業の皆様にもご協力をお願いしたく、主要な点についてお話を申し上げます。

7月1日から夏期の節電対策が全国的に行われますが、この15日に試行を行います。できるだけ多くの事業所、家庭におきまして、様々な節電の取組を試していただき、節電効果や節電対策を実施した場合の課題を確認していただければと考えております。

実施時間帯は、朝の9時から夜の8時までです。日中の最も暑くなる時間帯は、午後1時から3時までで、これが夏場の電力利用のピークになる時間帯です。この午後1時から3時までを重点時間帯ということで取り組んでいただきたいと思います。

例えば、家庭では使っていない部屋や廊下の照明を消したり、見ていないテレビを消す。あるいは待機電源、完全にコンセントを抜きますとゼロになります。最近の電気器具は立ち上がりを早くするために待機電源をつけておりますが、使わない場合はそれを完全に抜いておきますと、その分かなり電気消費量が少なくなります。

エアコンも28度ぐらいの設定で使っていただければと思います。ただ、高齢者の方、あるいは乳幼児のいらっしゃる家庭では、あまりご無理をなさって体調を崩されると困りますので、無理のない範囲で行っていただければ幸いです。その状況により弾力的に判断していただきたいと思います。エアコンの使用はできるだけ節度をもって、あまり冷や

しすぎないようにお願いしたいと思います。

洗濯機、乾燥機、掃除機、炊飯器等々は非常に電力を使います。それぞれ少し工夫して出来るだけピーク時を避けてお使いいただきたいと思います。

企業の皆様に対してですが、被災地の復旧のため、シーズンのにどうしても生産を落とせない、技術的に電力の使用を抑えると全くその製品が生産できないようなところもございます。その時間帯にどうしても節電できない場合もあると思いますが、生産に直接関係のないオフィス、事務部門等については、最大限、積極的に節電をお願いしたいと思います。

この取組の結果、全県の電力使用量、特に重点時間帯、午後１時から３時までにつきまして、前年の同じ週の平均値と比べてどうだったのか、また前日１４日と比較してどうであったのかについて、東北電力の協力を得て翌日の夕方ぐらいまでに速報値を発表する予定です。また来週には詳しい分析結果を発表し、今後の対策に反映させたいと考えております。我々もいろいろな形で周知をしておりますが、マスコミの皆さんにもよろしくご協力をお願い申し上げます。

(幹事社)

それでは幹事社から何点か質問させていただきます。

工場について、できるだけ節電をというお話でしたが、１５（％）という数字を特に据えずに、できる範囲でということでしょうか。

(知 事)

大口（の企業）は、それぞれ電力（会社）と個別でやり取りしています。それぞれの事業所では、若干時間をずらしたり、スーパーなどは大分照明を落としているところもございますが、どうしても生産を止められないところもあると思います。ただ、１時から３時までの夏場のピークの電力を、それぞれの作業の工夫の仕方によって抑えることができる場合もあり、ご協力をお願いしたいということですが、一律にというのは難しいことから、努力目標として１５％を掲げております。

(幹事社)

先行して節電実験を行っている県では１５％に達しないケースが多くあり、その中で特に一般家庭に対するＰＲ不足が課題なのではないかという話もあるのですが、その点についてどう取り組まれるお考えでしょうか。

(知 事)

やはり一般家庭へのＰＲは、何回かやらないと分からない面もあると思います。それから、この結果をフィードバックして、一般家庭の皆さんにもお届けしなければならないと思っております。

最近あまりに便利になり、どの電気器具がどのぐらい電力を使うのかをわかっていない方が多いです。待機電力についてもわかっていない方がいらして、我々の世代、小・中学生ぐらいまでは、電気が少なく電気休みというのがあり、こまめに電気を点けたり消した

りする習慣がありました。うちの子供にいつも叱るのですけれども、最近は割と無頓着です。もっとPRは必要ですし、あまり生活に支障のないやり方はあるわけですので、この結果をどう（県民の皆様）にフィードバックするのが今後の課題だと思います。

（幹事社）

6月15日に開会します6月議会に向けて、方針や主な重点施策などお聞かせください。

（知事）

5月の臨時会で大震災対応の予算も組みましたが、その後の必要なものについて今回メインになると思います。被災地の避難者の受入は、今1,500人台ぐらいですが、これから長期にわたることも考えられ、当面必要となる分を今回手当し、状況によって9月議会で補正する形で取り組むということです。

NHKの土曜日の日本海中部地震の津波などに関する番組は、私も見ましたが、大変いい番組を流していただきました。地震は日本海側でも起きる可能性は十分あるわけで、今回の大震災を受けて、特に沿岸部の津波対策等々、県民の皆さんは大変心配なさっています。県では防災対策について見直しをかけていますが、全体的にはかなり専門的な領域で、簡単にすぐ結果は出ません。当面各市町村で、特に沿岸部でハザードマップを作っていたく、避難所の再チェックをしていただくことが必要です。これに対し県としても支援をする、社会福祉施設等の自家発電関係の設備導入に対して援助するという、今後の災害に備える予算を措置しております。

金額で大きいのは、県警ヘリ「やまどり」の（テレビシステムの）デジタル化です。今回も被災地に各都道府県のヘリコプターが集結しましたが、アナログのため、なかなか鮮明な画面が見られませんでした。今度デジタル化になりますと、上空から車のナンバーも読み取れるくらいの精度で映像をとらえることができます。こういうことも必要です。

新エネルギー産業の創出については、国会に上程している（再生可能エネルギーの）全量買取制度が法律的にきちんと裏付けにならないと難しい。全国的に見て、電力については節電で何とか切り抜けようとしています、冬も足りません。各電力会社が臨時的にタービン発電を導入したりしていますが、電力不足の問題が、これからの日本経済に非常に大きく影を落とすのではないかと懸念しております。新エネルギーでこれを全部賄うことは物理的、学術的にできないのですが、既存の発電所のリニューアルも含めて、大手資本も、中小企業も発電ビジネスに参入するという大きな流れになっております。発電ビジネスは特に空間容量がないとできませんが、メガソーラーも秋田で十分可能であります。孫さんのメガソーラーの話も含めていろいろ出てきており、秋田の場合は農地でなく、原野のような、環境にも影響を与えないところがあるのではないかとということで今回調査をしたいと思っています。

元気創造プランにもありますが、自然エネルギー、風力、太陽光、地熱等々に対して最大限積極的に取り組んでいく、様々なところと手を組んでやっていく、そういう基本方向で進めていくということで、予算をあげております。

もう一つは、秋田港（国際コンテナターミナル）の第1期計画、第2期計画です。私が知事になってすぐ手掛けたのですが、この方向は間違いではなかったと思います。秋田港

の充実をどんどん進めながら、震災対応だけではなく、日本海側の重要な拠点港としての位置付けをしていきたい。こういう機会に、いろいろ荷主さんに使っていただいた実績もごございますので、コンテナヤードも含めて秋田港の整備を進めていきたいと思っています。大手物流関係（企業）が、内陸部への拠点整備も検討しているという情報も入ってきております。当然、港湾、高速交通体系を含めた全国ネットの物流企業等々との組み合わせも考えられますので、コンテナターミナルについて今回２期計画も視野に入れてやるということです。

国民文化祭のサテライトセンターは、額は約３，０００万円ですが、たくさん人が集まりやすい場所を活用するということでもあります。

総体的には震災対応、秋田の自然エネルギー、物流の位置付け等々について今回予算化しており議会での議論になると思っています。

（幹事社）

来月開催予定の全国知事会議について伺います。

先ほど知事もおっしゃっていた、孫さんのメガソーラーの話も進んでおり、大震災後の東北での開催ということもあります。開催県としてのスタンス、秋田県として打ち出したメッセージ、どのように臨まれるのかお聞かせください。

（知 事）

私が知事になってから３回目の知事会議ですが、今までとは位置付けが違うのかなと思っています。国政との絡みもありますが、活発な議論がされるのではないのかと思っています。国と地方の協議の場の法制化など、ようやく地域主権の流れになってきていますが、この震災の関係等々で、地域主権の問題等が飛ばされてきたものもたくさんございます。こういう問題についてももう一度知事会としてきっちり確認し、国に対してこれからの分権時代の制度のあり方を強く訴える一つの大きな節目の知事会議ではなかろうかと思えます。

もう一つは、大震災後の東北の復興のみならず、日本の国土のあり方についても、相当題材になる。特に言いたいのは、今回の被災地の瓦礫の問題にしても、とにかく（対応が）遅い。テレビでいいことを言っていました。これが東京だったらどうなんだろう、政府はどうも東北の位置付けについて、少し軽んじているのではないのかと。そういう意味からすると、日本全体の中での東北の位置付け、重要さを、この節目に秋田で、大きな声として発信しなければならないと思っています。

大震災以降、復興という非常にきれいに聞こえる言葉で、東北に突然スポットが当てられて、秋田も含めて未来都市のような素晴らしいものを創るような非常にうわずった考え方が今ある。被災地はそれどころではない状況にあり、苦しんでいると思います。現地の大切さをお互いに共有しながら、この後スピーディーにやることと、中長期的にやること、これを現場感覚でとらえる一つの機会に、秋田の知事会議がなればと思っています。大風呂敷を広げるより、今現実には１０万人近い避難者の方が、仮設住宅に入っても職がないなど、非常に大変な状況です。これを捨て置いて、全く空想物語のまちづくりをやろうといってもできるわけがない。やはり現地の状況を見ていただいたり、現地の知事さん方に

パネラーとして出ていただく、ありったけ現場感覚を出すような知事会議にしたいと思っています。

また、若い知事さん方は、秋田に来たこともない方がたくさんいらっしゃると思いますので、こういう機会に秋田を生で見ていただき、こういういい場所もあるということのを大いにPRできればと思っています。

また、7月13日に、孫さんの自然エネルギー協議会が秋田での知事会にあわせて行われます。我々は自然エネルギーについて力を入れていますので、秋田がメガソーラー等々の最初の情報発信の場所になるということも大変期待しており、我々も最大限協力してまいります。

(記 者)

6月定例会に関連することです。県議会の方は、今定例会中に今の年間4回の定例会制を2回の定例会制にする条例案を提出する方向で今、調整を進めていらっしゃいます。一義的には議会の判断かもしれませんが、執行部としては定例会を2回制に移行することに関してどうお考えでしょうか。

(知 事)

我々行政として議会と常に表裏一体で動いています。(会期が)倍の日数になるといっても毎日議論をしているという話にはならないと思いますが、例えば国庫補助が決まったときに(補正予算措置を)やらないと(事業実施が)少し遅れる。そういう意味では、行政のスピードアップ、施策のスピードアップにつながると考えております。

ただ、行政としてもそれぞれの職員もみな仕事を抱えていますので、あまり極端に議会対応だけにとらわれてしまいますと、日常の業務が滞る場合もございます。そのバランスは当然必要だと思いますが、会期が長いということでその間、即応体制ができることについては、プラスに働く面の方が多いのではないかと思います。

(記 者)

議会の結論に対して、知事としては尊重されるということでしょうか。

(知 事)

非常に世の中の動きが早くなり、3カ月待って予算化し、それから腰を上げるということをやっていると遅れるものもたくさんございます。そういう意味ではスピーディーに審議し決定していただくことについては、いいのではないかと思います。

(記 者)

職員の方の議会対応が負担にならないように議会の方に申し入れるとか、そういうお考えはございますか。

(知 事)

それは議会の方でもおわかりだと思いますが、私ども県民のためになることであれば、

忙しいと言っておられませんが、大きな行事、いろいろな仕事の流れというものを十分議会側にお伝えしながら日程を調整していくことで、そう無理はなくできるのではないかと思います。

(記 者)

国政の関係で2点ほどお伺いしたいのですが、菅総理は退陣を示唆されたままいつ辞めるかわからない状態ですし、退陣後の政権のあり方についても全く不透明になっておりますけれども、政治家の出处進退のあり方と今後の政権の枠組み、望ましい政権の枠組み、知事ご自身はどう思っているのでしょうか。

(知 事)

非常に違和感を感じたのは、この間菅総理が、不信任案が大差で否決されたということは信任されたというニュアンスの言い方をしていましたが、早く辞めると言うから否決してもらっただけなのです。ですから早く辞めると言わないと、民主党側でも造反者が賛成したわけで、とても私などはそれほど神経が太くありませんので、いかがなものかなと思います。(政治が)がたがたしており、ここまで至ったら、逆に(政治の)空白です。今度、自然エネルギー庁を作ると言っています。いろいろな会議を作るけれども、自分で決めればいいのです。自分で決められない人はやはり困る。

その後の枠組みについては連立がいいのかどうか分かりませんが、格好つけはやめていただきたいです。官僚政治の打破というけれども、優秀な官僚の方が時間を持てあましています。むしろ優秀な官僚が一生懸命働けるような形で、この大震災の復興、日本の様々な課題に対応すべく、持てる人的資源を有効に活用するような政治体制になって欲しいと思います。

(記 者)

格好つけはやめていただきたいというお話がありましたけれども、具体的にはどういうことでしょうか。

(知 事)

例えば浜岡原発は、東海沖地震を想定すると、止めたことについて一つの評価はあるわけですが、あれで失業する人がかなり出ますし、電力不足が確実に起きます。そういうところをどうするかという対策も含めてしないと、言いつばなしでは地元も困る。何をやるにしても、裏付けの対策がない。太陽光(などで発電量の)20%(以上を賄う構想)にしても、屋根にみなつければいいものではないわけです。その場合にどのぐらいの物理的な制約があるのか、お金はどのくらいかかるか。勝手に言うのはいいけれども後でみな困る。大きいことを打ち上げる際には、一定の目論見があってしかるべきです。打ち上げるのは誰でもできます。でも打ち上げる以前の問題としてその準備がない、これがやはり今、現場に混乱を起こしているということではないでしょうか。格好つけるときは、スーパースターもそれなりに実力があって格好つける。それだけの実力を持って、訓練しているから格好つけられるのです。そういうことだと思います。

(幹事社)

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

(知 事)

はい、どうも。